

# 後援会だより

## ご挨拶

福島大学 共生システム理工学類  
後援会副会長 瀬川 秀和



二年目となる今年度に新たに入学生を迎え、会員数も倍増し、学内はにぎやかさを増しております。一方、二年次学生にとっては各々の専攻決定により進路目標が明確化され、一年次とは違った支援が必要になって参ります。

また、今年秋頃には二年生の保護者を対象とした「親のための就職セミナー」なども予定されており、いよいよ後援支援活動も本格化してくるなどというのが実感であります。

学生には学業・研究はもちろんのこと、クラブ活動やボランティア活動など様々な活動を通じて多くの仲間や友を得て、充実した学生生活と人間形成を行い、社会が期待する人材に育てていただきたいと願うものであります。

このような中で、7月に、待望の研究実験棟が完成し、学生にとっては、新たな施設・設備を活用し、研究・実験を通じ、自己研鑽に努めていただきたいと願うものであります。

さらに、企業に対しては今後基本的に地域企業との共同研究あるいは地域連携での学生の教育に関与する場合に優先的に研究実験棟の設備等を使用させるという方針から、この研究実験棟が地域の産業振興に大いに貢献するものと期待、及び確信するものであります。

これらを踏まえ、後援会活動の充実のため大学との連携をいっそう深め、富田会長を先頭にして後援会活動に本腰を入れて参りたいと考えております。

なお、研究実験棟の設備資金としてまだ二億円ほど必要であると聞いております。理工学群のみならず、福島大学関係各位の教育後援募金活動へのご協力をお願い申し上げます。

併せまして、会員の皆様におかれましては、ご意見やご

要望等何でも結構ですから本会事務局までお気軽にお寄せ願います。今後とも皆様方のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。今年度後援会副会長の就任にあたりましての挨拶といたします。

## 学生交流会

— 7月5日(水) —

### 共生システム理工学類自治会

お忙しい中多くの先生方をはじめ学生の皆さんに来ていただき、大変感謝しています。交流会は理工学類独自のものであり、新しい自治会メンバーになってはじめての大きな行事だったので、皆さん楽しんで帰っていただけるよう一生懸命企画・準備してきました。スムーズに進まず予想外なこともありましたが、多くの方に楽しんでいただき本当にうれしく思います。

また、質問やゲームを通して本来の目的である先生方と学生、一年生と二年生との交流ができていたのではないかと思います。

質問など多くしていただき、皆さんのおかげで盛り上げることができました。ありがとうございます。

参加者の確認や宣伝面での呼びかけの甘さにより、集まりが悪かったなどの反省点や改善すべき点はしっかりと話し合い、よかった点はもっといいものにして、来年に生かせるように、皆さんにより楽しんでいただけるようにしていきたいと思っております。

今後ともご協力をお願いいたします。



# 学業優秀者賞・学類長賞 受賞式

— 7月5日(水) —

## 学類の学生表彰制度ができました

前学生生活委員会担当 黒 沢 高 秀

様々な分野で頑張っている学生を応援したい、そんな想いから本学類独自の学生表彰制度ができました。特徴は、学生の本分ともいえる「学業優秀者」と、本学類の発展に大きく寄与した学生や団体に授与する「学類長賞」の2本立てにし、それぞれ別個の方針のもとで選考していることです。また、例えば学業優秀者では順位づけはせず到達度とし、上位0.5-1割程度を広く表彰する、両表彰とも毎年ごとの成績や貢献を対象とする、賞品をつけ表彰式は盛大に行う、後援会報などへの広報に努めるなど、学生の毎年の目標になり、励みになるような工夫もいくつか組み込んでいます。もちろん、賞をもらうこと自体は目的ではなく、普段の努力の副産物であるべきですが、表彰された人はこれを誇りに益々活躍し、それを契機に周りの人にも様々なよい影響が広がってゆく、そのような正の波及効果が生まれてゆけば、とてもすばらしいことだと思います。初の受賞者の皆さんは、そんな期待を十分に抱かせてくれる顔ぶれでした。



## 学業優秀者賞を受賞して

富 田 優

今回、思いもよらず、このようなすばらしい賞をいただき、とても嬉しく思っています。大学での勉強は高校までのような課題と演習と暗記漬けの勉強とは違い、授業の内容からさらに発展させて考えること、自分なりの意見や考えを起承転結の体裁を整え、レポートとしてまとめることが多く、“教科書”のない勉強に戸惑いを感じました。また、高校で習ってきたはずの化学、習っていなかった物理、はたまた地学までもが、いつの間にか“数学”と化し、はっきりいって何をやっているのかわからなくなります。ですがその反面、数式を使って導きだし、証明される自然現象やミクロなあるいはマクロの世界に感心することもあります。1年（正確には、たった15回の授業）で学んだそれらは、まったく浅い知識でしかありませんが、興味を持って調べたり、悩んだりしたことで自分なりの理解ができたのではないかと思います。また、私は大学に入るまでは、大学の教授というのは生徒に特に関心がなく、無愛想というイメージを持っていましたが、オフィスアワーでは貴重な時間を割いて丁寧に質問に答えてくださるので、今後もその時間を有効に利用できたらと思います。

ところで、今私が興味をもっていることは、漠然とはしていますが、ミクロな世界では環境への負荷を軽減させる微生物の力、マクロでは地球温暖化の原因となる二酸化炭素やその有害物質などについて研究し、それらをいかに

効率よく有効利用していくかなどについてです。“文理融合”の共生システム理工学類だからこそ、教養科目、文理融合科目などを学べるので、今はさまざまな分野の知識の「引き出し」を作り、今後それらをあらゆる方面で活用していけたらいいと思います。

大学生生活2年目を迎え、専門教科、実験、レポートそして朝から晩までの大好きな馬術部との両立にますます大変さを実感する毎日ですが、今回いただいた賞をパワーにがんばっていききたいと思います。本当にありがとうございました。

## 学業優秀者表彰をうけて

伊 藤 光 輝

今回このような賞を頂きまして、本当にありがとうございます。この賞を頂けたのは、自分ひとりの力ではなく、多くの人のお力添えがあったからだと考えています。その中でも、一緒に学習していた友達の力が、何よりも大きかったと考えています。

自分では手がつけられない問題でも、友達に教えてもらうことで解法がわかったり、話し合うことでさらに発展することができたりと、私は多くのものを友達から吸収させていただいています。

二年次からは、一年次と比べて専門科目が格段に多くなってきています。それに伴って、学習内容もさらに濃く、そして難しくなってきました。今後、自分ひとりではわからないこともさらに多くなってくると思います。そのような時は、先生方に質問をしたり、友達と話し合ったりして、問題をひとつひとつ解決していきたいと考えています。

今後も現在の成績を落とさないよう、よりいっそう勉学に励んでいきたいと考えています。

## 『果 断』

加 藤 俊 一 郎

この度、福島大学共生システム理工学類の歴史で最初の学業優秀者としての表彰を受け、素直に嬉しく思っている

が、それと同じくらい驚きもあった。というのも、表彰されたという事実を、表彰式が終わってから伝えられたからだ。事前に正式な通知はなく他人事だと思っていた学業優秀者に、まさか自分が選ばれているとは思ってもみなかった。

私は毎日片道約2時間かけて通学している。決して短くない時間だが、大学生活にはそれを無駄と感じさせない面白さがあった。講義や、仲間との会話の中での新しい発見。それが私にとっての一番の楽しみである。今までの自分の視野の狭さを知り、もっと色々な分野の知識を身につけたいという気持ちにしてくれる。今回の受賞で氣勢をあげた私は、これからさらに様々なことに積極果断に挑戦していくだろう。私を奮い立たせてくれる、すべてのものに感謝している。

## 努力の軌跡

安 沢 孝 太  
木 村 直

今回、専門分野の自主的学習及び本学類広報活動を受賞理由に学類長賞を頂きました。このような賞を頂いたのは我々のクラスアドバイザーとして、本学類教授の高橋隆行先生が担当となったことに関係があります。もし、担当がほかの先生であればこのような機会が無かったかも知れません。

専門分野の勉強が出来たきっかけは、ロボコンゼミナールの設立です。研究室でロボットについて勉強していく内に、人間関係の形成や学問の楽しさを実感することが出来ました。

ロボゼミでの活動では、週2回講義終了後、20時から1時間ほどのゼミを行い、ロボットを作るための必要な知識を学んでいきました。さらに、知識と共に先生指導の下、設計やハンダ付けなどの技術も磨いていきました。

広報活動という点では、学祭でのロボット披露ならびに学類紹介、ラジオの出演などを行いました。

現在は来年の知能ロボコン出場を目指して、日々精進しています。これからも専門分野を積極的に学び、福島大学に貢献できるような活動をしていきたいと思っています。



## 三宅島土壌調査に参加して

白川 百合恵

2006年3月に三宅島へ行きました。火山堆積物が土壌としてどのような遷移をたどるのかを微生物学的に研究する

目的で、茨城大学、東京農工大学、メイン州立大学、そして福島大学が共同で研究を行っています。基本的知識も十分でない私は話についていだけで精一杯でしたが、英語による会話は更にそれを困難にさせました。しかし逆に学ぶことも多く、先輩方の勉強熱心なこと、試料採集時のコツや、英語を話すことの重要性などを学びました。また試料を持ち帰ってからの分析ではDNAの抽出や、PCR、電気泳動の操作方法、アンモニアの分析方法などを教えていただきました。実験は失敗の連続ですが、難波先生に様々指導していただきながら楽しく行うことが出来、成功したときはとても嬉しかったです。これからの自分にとっての課題は、さらに勉強し自分が興味を持っている分野に対する理解と知識を深めていくことだと思います。



## 学類長賞を受賞して

共生システム理工学類自治会

今回このようなすばらしい賞をいただき、自治会一同深く感謝しています。昨年は準備が整っていないと、先生方を始め学生の皆さんに大変迷惑をおかけしました。しかし、今年は昨年の反省を生かしながら話し合いを重ねて、体制を整えています。まだまだ至らないところはあると思いますが、是非一人でも多くの人に利用していただくと幸いです。

また、これからよりよい自治会にするためにも皆さんの意見を多く取り入れていきたいと考えております。自治会前に目安箱をおいておりますので、ご意見ご要望をお寄せください。

このような賞をいただき光栄であると同時に、そのすばらしさに見合う活動をしていきたいと考えております。そして、今年も精一杯活動していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

## 平成17年度学業優秀者

富田 優・伊藤 光輝・加藤俊一郎・東条 聡子  
安沢 孝太・木村慶一郎・木村 直・森 淳子  
畠山 香里・渡部 康実・横山 紘樹

## 平成17年度学類長賞受賞者

共生システム理工学類第1期自治会執行委員会  
白川百合恵・安沢 孝太・木村 直

# 1年クラス紹介

## Aクラス

Aクラスアドバイザー 田中 明  
顔合わせのときはおとなしそうな印象を持ちました。イベントは4月に花見を行いました。私は残念ながら参加できませんでしたが、クラスの雰囲気はよいようです。勉学に限らず充実した大学生活が送れるようにサポートしていきたいと思っています。



## Bクラス

Bクラスアドバイザー 佐藤 理夫  
先陣を切ってボーリング大会を実施した、積極的なBクラス。クラスの強い結束で、要領よく大学に馴染んだようです。学業・サークルなど様々な場面で活躍して、たくましくなるとともに個性が出てきました。



## Cクラス

Cクラスアドバイザー 木内 豪  
Cグループの学生は全体的に明るく、よく物事を考えているという印象で、今のところ特に指導は不要、「手のかからない子供を持って幸せ」な親の気分です。しかし、「教養演習」で講演をしたところ、寝入っている学生も多く、自分の話術の未熟さだけでなく、学生の疲労も垣間見られま

した。後期に向けて、夏休みはリフレッシュ・体力増進が大切だと思いました。



## Dクラス

Dクラスアドバイザー 二見 亮弘  
東北6県と、栃木、静岡、富山、中国吉林省の出身者がいます。4月22日(土)には信夫山で花見をし、その後ボーリングを楽しみました。夕方の信夫山公園は泥酔者が多く大変でしたが、我がクラスは大人の花見でした。



## Eクラス

Eクラスアドバイザー 中山 明  
福島大学の旧行政社会学部時代、頻繁に教養演習を担当しましたが、理工に移籍後は初担当です。当時と比べ中身は変化するも、学生さんとの触れ合いを重視する点是不変です。ボーリングや勉強会を通じて皆さんの快活さ(本性?)が見えてきました。



## Fクラス

Fクラスアドバイザー 柴崎 直明

F組ではクラス独自の取り組みとして、研究室訪問を行いました。3人ずつのグループをつくり、メールで本学類の教員にアポをとり、研究内容等についてインタビューするという企画です。研究室を知る良い機会になりました。



## Gクラス

Gクラスアドバイザー 中村 勝一

本グループは、4月当初「比較のおとなしい」雰囲気でしたが、入学から数ヶ月経った現在では、勉強・サークル活動など思い思いに頑張る様子が見られ、どのメンバーも次第にそれぞれの個性を発揮し始めているようです。



## Hクラス

Hクラスアドバイザー 横山 雅夫

前期の教養演習では合同授業が多かったので、あまり個人的に接する機会がありませんでした。でも、Hグループには積極的な学生が多く、グループとしてまとまっているという印象を、私は持っています。後期の授業が楽しみです。



## Iクラス

Iクラスアドバイザー 塘 忠顕

Iクラスは女性5名、男性16名の計21名のクラスで、宮城県出身者(8名)が地元福島県出身者(7名)よりも多いのが特徴(?)で、中国からの留学生も1名います。互いの個性をぶつけあいながら、それぞれが成長していった欲しいと思います。



## 「縦コン…先輩のいる幸せ」

1年生Iクラスアドバイザー 塘 忠顕

1年生前期にクラスのメンバーだけが集まる授業は「教養演習I」しかありません。ところが、この授業も各種ガイダンスに当てられる場合が多く、なかなかクラス独自の活動ができないので、「かぶった猫」をなかなか取ってこない学生も……。そんな中、2年生Iクラスの学生が「1年生と2年生のIクラス交流会」を企画してくれました(縦クラスのコンパ、通称「縦コン」)。この交流会では、理工学類一期生であり、先輩をもたない苦労を味わった2年生から学生生活や授業等に関するアドバイスをもらおうと同時に、1年生どうしの親睦をいっそう深めたようです。Iクラスのメンバーは、クラス代表や自治会関係の役員すべてが立候補によってスムーズに決まるなど、積極的で協調性のある学生が多いので、アドバイザーとしては、後期の「教養演習II」では一致団結してパワフルな演習活動を行ってほしいものと期待しています。



## 親のための就職セミナー開催！

主催 福島大学就職支援委員会  
 後援 福島大学人間発達文化学類後援会 福島大学行政政策学類後援会  
 福島大学経済経営学類後援会 福島大学共生システム理工学類後援会

### 親として若者の未来にどう関わるか！

フリーターやニート問題が社会問題となっている昨今、大学では保護者とも連携しながら就職支援をしていく必要性があります。本学就職支援委員会では、就職難を打破し、子供の働く意欲を高めるために親はどうかかわるべきなのかについて理解を深めようと、各学類の2年次生の保護者を対象に「親のための就職セミナー」の開催を企画いたしました。

当日は、金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されておりますので、是非ともご来場いただきますようお願いしております。

なお、セミナーへの参加申込書を別紙添付いたしましたので、参加ご希望の方は参加申込書にご記入の上、FAXまたは郵送で下記送付先へ10月20日(金)までお送りくださいますようお願いいたします。

#### 記

1. 開催日時：平成18年11月4日(土) 10時～11時30分 [参加無料]
2. 開催場所：福島大学共通講義棟 L-1 教室 (福島市金谷川1番地)
3. 参加対象：福島大学の四学類2年次生の保護者
4. 開催内容：①挨拶 福島大学副学長(学務) 中井 勝巳  
 ②講演 小島 貴子 氏(立教大学コオプ・コーディネーター)  
 ③質疑応答  
 ④福島大学の就職状況について

#### [参考]

##### ● 小島 貴子氏のプロフィール

金融機関で新人教育を担当した後、1991年に埼玉県職の職業訓練指導員に。若者相談者の就職を7年連続で100%達成「カリスマキャリアカウンセラー」と称された。2005年5月より現職。

[送付先]福島大学学生課就職支援室長 阿部 達

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355

## 学生生活支援便り

共生システム理工学類学生生活委員会

随時紙面をお借りして、後援会の皆様にご共有の共生システム理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしています。

**【学類学生の動向】**残念ながら、4月に2件の盗難の報告がありました。学生には貴重品の管理に注意するよう周知をしています、それ以外は今のところ大きな事件、事故は起きていません。6月には昨年度新設された理工学類学生表彰の授賞式および学生交流会が執り行われました。(詳しくは別冊を参照ください。)また、新たに2学年となったことで、1・2年の間で交流会を実施したグループもあり、学類内の雰囲気はよいと思われます。

**【学生課を名乗る不審電話】**昨年度も報告がありましたが、今年度も本学の他学類学生の複数の保護者に「福島大学学生課の〇〇ですが、××さんの進路のことで…」と言って、個人情報を出そうとする不審電話がありました。学生課では緊急な用事で学生と連絡が取れない場合以外で、保護者の方々に連絡することはありません。また連絡する場合でも学生の所属や氏名、用件をハッキリ伝えることとしています。学生課を名乗った不審な電

話にはくれぐれもご注意ください。

**【大学への相談】**前期も終わり、学生生活に関わっているいろいろな問題や心配事が生じてくることもあるかと思えます。学生生活全般は「学生課」、学生課などに相談しにくいことは「学生総合相談室」で相談を受け付けています。基本的には本人から直接相談するのが好ましいケースが多いと思いますが、父兄の方等からの相談も可能です。学生生活上の問題(対人関係、生活上の問題など)、健康上の問題、メンタルヘルス上の問題、寮生活上の問題で相談したい、あるいは教員との間でトラブルがあるようだ、アカデミック・ハラスメント被害、ストーカー被害、セクハラ被害などにあっているようだ、学費納入が困難になった、カルト宗教や不審な団体から勧誘を受けているようだ、悪徳商法の被害にあっているようだ、無理に酒を飲まされて困っているようだ、本人と連絡が取れない、等の場合はご相談下さい。

**学生課** (電話 024-548-8028) 受付時間：月～金 9：00～16：30 (時間外でも可能な限り対応します)

**学生総合相談室** (電話 024-548-5156、024-548-8058、電子メール g039@ipc.fukushima-u.ac.jp) 開設日等：月・水・金に開設しますが週によって異なります。詳細は学生課にお問い合わせ下さい。

## 平成17年度共生システム理工学類後援会会計決算報告

収入内訳

(単位円)

科 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
会 費	3,800,000	3,840,000	40,000	20000×190→20000×192
雑 収 入	0	23	23	預金利息
繰 越 金	0	0	0	
合 計	3,800,000	3,840,023	40,023	

支出内訳

(単位円)

科 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
事 務 局 運 営 費				
総 会 費	30,000	4,605	25,395	資料印刷費等
役 員 会 費	100,000	81,632	18,368	理事会会場費、交通費、資料費
人 件 費	300,000	223,000	77,000	幹事事務手当て 1000/時 15時間/月×12 諸会費納入受付アルバイト3件
職 員 旅 費	50,000	0	50,000	
事 務 費	230,000	354,391	△124,391	通信費、消耗品費、事務局備品(本年度のみP C・後援会印)HP管理等
小 計	710,000	633,628	46,932	
事 業 費				
学 生 活 動 助 成 費	380,000	283,560	96,440	学生の研究・課外活動支援費(8件)
就 職 指 導 対 策 費	200,000	3,000	197,000	企業講演会、企業交流会、就職先開拓(1件)
後 援 会 報 費	200,000	148,215	51,785	会報年2回発行
福 利 厚 生 費	190,000	112,614	77,386	アドバイザーグループ親睦会等助成(5件)、学類学生交流会(1件)
教 育 研 究 助 成 費	200,000	15,708	184,292	実施指導、実習指導助成(1件)
小 計	1,170,000	563,097	606,903	
予 備 費	1,920,000	0	1,920,000	学生活動助成(38万円×3年)福利厚生費(19万円×3年)通信費(3万4百円×3年)等を含む
合 計	3,800,000	1,226,725	2,573,835	

収支決算 3,840,023 - 1,226,725 = 2,613,298 円は平成18年度へ繰越

平成18年3月31日報告

上記のとおり報告いたします。

共生システム理工学類後援会 会計担当

田井昌子



平成17年4月1日から平成18年3月31日までの会計について、会則に基づき監査の結果、その処理が正確であり適切であることを報告します。

共生システム理工学類後援会 監査役

浅田英治



## 平成18年度共生システム理工学類後援会会計予算

収入内訳

(単位円)

科 目	平成18年度予算額	平成17年度予算額	比較増減額	備 考
会 費	2,613,298	0	2,613,298	
雑 収 入	3,640,000	3,800,000	△160,000	20000×182(平成18年3月31日現在)
繰 越 金	0	0	0	預金利息
合 計	6,253,298	3,800,000	2,453,298	

支出内訳

(単位円)

科 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
事 務 局 運 営 費				
総 会 費	30,000	30,000	0	資料印刷費等
役 員 会 費	100,000	100,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人 件 費	400,000	300,000	100,000	幹事事務手当て 1000/時 20時間/月 謝金含む
職 員 旅 費	50,000	50,000	0	理事等の打合せ
事 務 費	250,000	230,000	20,000	通信費、消耗品費、事務局備品 HP管理等
小 計	830,000	710,000	120,000	
事 業 費				
学 生 活 動 助 成 費	860,000	380,000	480,000	学生の研究・課外活動支援費 2000/人、表彰制度 5000/人×20
就 職 指 導 対 策 費	600,000	200,000	400,000	企業講演会、企業交流会、就職先開拓
後 援 会 報 費	400,000	200,000	200,000	会報年2回発行
福 利 厚 生 費	380,000	190,000	190,000	アドバイザーグループ助成 1000/人、学生交流会等
教 育 研 究 助 成 費	400,000	200,000	200,000	実施指導、実習指導助成
小 計	2,640,000	1,170,000	1,470,000	
予 備 費	2,783,298	1,920,000	863,298	学生活動助成 38万円×(2+3)年 福利厚生費 19万円×(2+3)年 通信費 3万4百円×(2+3)年 等を含む
合 計	6,253,298	3,800,000	2,453,298	

## 平成18年度 福島大学理工学群共生システム理工学類後援会役員名簿

役員

会 長：富 田 康 男 (H17～)  
副 会 長：清 野 好 江 (H17～)  
副 会 長：瀬 川 秀 和 (H18～)  
監 査：浅 田 英 治 (H17～)

理 事：遠 藤 新 一 (H18～)

事務局

共生システム理工学類長：入戸野 修  
総務担当評議員：渡 辺 明  
事 務 局 員：田 井 昌 子

## こんな活動も応援しています

### 理工学類・研究会

6月23日(金)行政政策学類棟2階大会議室において、理工学類主催「研究会／『現代版アメリカ物語』」の開催をお手伝いしました。研究会の趣旨は、外部の方やスタッフを講師に、学生だけでなく教職員にも刺激となるものを定期的に開催しようというものです。今回は、初回との位置づけで「アメリカでの研究生活に関する報告」を産業システム専攻の大山大助教授にお話していただきました。内容は幅広く、単なる留学旅行記というより、米国の文化・教育・研究など多くの内容を写真入りで解説されました。大学に関わる内容もハーバード大とMITという世界トップの研究機関の話が中心で、学生諸君にとっては貴重な話ではなかったでしょうか。全学や理工学類の教務委員会との連携も模索しながら、このような会を続けていく予定です。

### 企業家による特別講演会



7月5日(水)株式会社アトム代表取締役社長、秦安延氏をお迎えし、「もの創造りのおもしろさ」と題して特別講演会を開催しました。

株式会社アトムは磐梯町にあって、1/1000mm単位の精密部品加工を得意とする会社です。

秦氏には、どうして起業したのかなどの体験談や、精密機械部品加工に関わる技術的な苦労話を、動画を交えながら具体的にお話していただきました。企業家による経験談やアドバイスは、学生のキャリア形成への関心を高め、自分の将来を見つめる良い機会になったと思われま

### オープン・キャンパスで学生が活躍

8月6日(日)福島大学オープンキャンパスが開催されました。主体的に活動する学生への助成を行っています。イベント・プランナーとして、キャンパスツアー・コンダクターとして、あるいは、新しい研究実験棟での教員研究シーズの紹介など、大学内外のいたる所で、来訪者をお迎えするオレンジ色のTシャツ姿の理工学類生が活躍していました。



11月4日(土)・5日(日) 福大祭一般公開にお越し下さい。

## 福島大学同窓会役員会報告

5月30日教育学部の吾峰会、行政社会学部の阿武隈会、経済学部の信稜会、及び共生システム理工学類同窓会準備会の代表者からなる福島大学同窓会(全学同窓会)役員会が開催され、会則改正と同時に、2005年の事業報告、収支決算報告および2006年の事業計画と収支予算案が承認されました。会則改正では福島大学同窓会会則第2条で「本会は、福島大学教育学部同窓吾峰会、経済学部信陵同窓会、行政社会学部同窓会阿武隈会、共生システム理工学類同窓会準備会をもって組織する。」と改正され、卒業生が正式に同窓会を結成するまで、準備会として全学同窓会に参加していくことが承認されました。また、全学同窓会の活動では、単なる卒業生の親睦だけではなく、在学生との交流を活発に進め、母校支援や在校生の就職活動支援等も実施していくことが盛り込まれました。母校支援では、今回始まりました共生システム理工学類研究教育後援募金に取り組むことが決定され、また、就職支援では、優れた卒業生の講演などを全学的に開催して、在校生との交流を図ることが計画されました。

全学同窓会は各団体1年間10万円の会費で活動しています。このため、同窓会準備会経費から毎年10万円の会費を納入することになりますが、新設の共生システム理工学類としては、全学同窓会の支援に応えるべき準備をしていきたいと考えています。 渡邊 明(同窓会準備会担当)

### 編集後記

一步、一步、共生システム理工学類の歩みが、この「後援会だより」に積み重ねられていく感じがしています。新たな一年生を迎え、二期生としての誇りと希望に満ちた前期セメスターが終了しました。初めて経験する大学生活、サークル活動、恋人探し、アルバイト…人生のモラトリアムと思って入ってきた学生も、ほとんど5コマまでの授業がある理工のカリキュラムの厳しさに驚いているようです。

一方、二年目に入った一期生も、後期から人間支援システム専攻、産業システム工学専攻、環境システムマネジメント専攻の3専攻に分かれ、いよいよ専攻毎の本格的な専門の勉強が開始されます。それにふさわしい立派な研究・実験棟も建ち、中身の実験機器も理工学にふさわしい実験ができるように真新しいものにその殆どがかわりました。

さらに現在、三年で実施する予定の海外演習の実施計画や大学院創設の準備もすすめられています。

21世紀の新たな科学としてのシステム科学を確立するための福島大学共生システム理工学類の挑戦は、戸惑う学生と共に1歩、1歩進められています。いつか、この瞬間が自己実現の基盤となっていることに気付く事を期待しつつ。

後援会担当 渡邊 明

ご意見・ご要望は下記共生システム理工学類後援会まで  
事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 TEL&FAX 024-548-8176  
福島大学理工学群共生システム理工学類内  
<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>